

二月校長だより(教頭だより)

令和7年2月17日(月)

岸和田市立岸城中学校 近野 光憲

本来であれば毎月校長先生より「校長だより」が発行されていきますが

今月については私の執筆をさせて頂きますので2月は「教頭だより」です。

さて、皆さん何点の入部ですか？私や皆さんから見れば何点の入部
ですか？答えは「わからない」が正しいのかも知りません。なぜなら
人の値打ちは点数だけではわからないものだからです。良～ところ(魅力)が
あって、悪～ところ(課題)があって両方あるから入部です。大人も子ども
も一緒です。得意があって、苦手があって入部です。

しかし入部の中で入部を点数で判断する瞬間があります。「何点以上
の入部〇」「何点以下の入部×」を突き付けられるのです。それは
高入学試や入部試験の時などです。本来、入部を点数で付けるとなると
できないことと大前提として、それでも点数で入部判断されてしまいます。
現在のシステムから、そうである以上、どうも「入部を点数でわからない」
と、いつか一定点数に向けて頑張る姿勢は必要です。

では、「入部を点数でわからない」社会をより豊かな入部にする為
に私達が大切にすべき考え方のひとつをお話します。それは「損得勘定」
で物事を判断しないということがあります。「損得勘定」とは、自分に
とって損か得かを決める為に利害を基準に物事を考えることです。

例えば、毎月校内の全てのトイレをチェックし、スリッパを毎時間毎時間整頓
してくれている先生がいます。それをたくいんやたかご給料が上がるわけ
下もありませんが、それでも毎日、毎日それを続けてくれています。また、ある
生徒は毎日正門付近であいつもしてくれりす。それを毎日せと成績
を上げてもらえることありませんが、寒い日も暑い日もあいつも
続けてくれています。

それらの行動を見た時に、「損心から…」とか「得心から…」
だけで判断されていなくどうかえりす。他にも岸武中学校
には、そのように損得勘定に支配されず、単純に「みんなにとって良
いことだから…」、「みんなにとって嫌なことだから…」の正しい判断
で生活してくれている人がたくいんいます。

「損得勘定」に支配されずと自分にとっても他人にとっても大切なことと
見失っかちになります。「みんなにとって良い」判断をしたとしてもすぐの評価に
つなげないこともあります。しかし入母その姿を見たりす。再度になります
入母点教ではか水子もの下はありせん。たかごのそ私達、入間の個
は表に現れない部分にあるのかもえりす。私も損得勘定に
支配されな入間になつたです。

2月の集会、私からの話でした。